

■PMF（パシフィック・ミュージック・フェスティバル）について

1 概要（※抜粋：PMFホームページ）

パシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF）は、世界の若手音楽家の育成を目的とした国際教育音楽祭です。20世紀を代表する音楽家、レナード・バーンスタインの提唱で1990年に始まり、毎年夏、日本の札幌を主会場に開催しています。

PMFの中心は、世界を代表する音楽家を教授陣に迎え、世界各地のオーディションで選ばれた若手音楽家を育成する教育プログラム「PMFアカデミー」。毎年、緑豊かな札幌芸術の森で、高い技術と豊富な経験を若手音楽家に伝える感動的な指導風景が繰り広げられます。

また世界的レベルの音楽指導を広く一般の方にも公開する「オープンリハーサル」や「教育セミナー」も開いています。

PMFは、札幌市を主体として設立された公益財団法人パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会によって運営されており、多くの団体、企業、個人の協力により成り立っています。グランドパートナーズ（特別支援企業）として、野村グループ、パナソニック、トヨタ自動車、ヤマハが支援しています。

Pacific（パシフィック）は平和を意味しており、音楽教育を通じて世界平和を希求したバーンスタインの願いがこめられています。毎年、国籍や言葉の壁を超えた交流とハーモニーが奏でられ、世界に広がっています。

<音楽普及事業>（※抜粋：2012年公式プログラム）

（1）オープンリハーサル

PMFオーケストラのゲネプロ（本番直前の全体リハーサル）を一般に公開するプログラム。中学生以上が対象。募集人数：1日あたり100人。

（2）PMF教育セミナー

音楽普及事業のひとつであるPMF教育セミナーは、世界で活躍する音楽家が行う音楽講座や、PMFオーケストラのリハーサル見学など、PMFならではの充実したプログラム。高校生以上が対象。募集人数：50人。

（3）PMF青少年のための音楽会

ピクニックコンサートで行われる小さな子供たちとその保護者を対象とした、トークを交えわかりやすく作品を紹介するコンサート。

2 PMFアンサンブル演奏会（アウトリーチコンサート）について

《2012年の主な開催場所》（※抜粋：PMFホームページ）

- ・JR札幌駅南口1階西側コンコース「妙夢」前
- ・もいわ山中腹エリア フォレストギャラリー
- ・北海道庁旧本庁舎（赤レンガ）
- ・札幌市清田区民センター
- ・北海道立三岸好太郎美術館
- ・札幌市東区民センター
- ・札幌時計台ホール
- ・札幌市役所1階ロビー

- ・アルテピアッツァ美唄アートスペース
- ・富良野演劇工房
- ・奈井江町文化ホール
- ・苫小牧市民会館
- ・北広島市芸術文化ホール（花ホール）

<参考>（※事務局担当者より聞き取り）

上記以外に実施したことのある街としては、

- ・函館市
- ・千歳市
- ・黒松内町
- ・蘭越町
- ・栗山町

《PMFのオーケストラ奏者を招へいするには》（※事務局担当者より聞き取り）

- （１）自治体の教育委員会、NPO法人、青少年育成団体など、音楽の普及に関して明確な目的があれば、招へいする団体は問わない。
- （２）7月から8月にかけて、確実に実施できる場所の準備（調整）が必要。
 なお、吹奏楽であれば、多少天候が悪くても演奏できるため、演奏場所は屋内・屋外を問わないが、弦楽器については、湿度の管理や雨天時の雨音等、会場の選定に注意が必要。
- （３）参加対象者（中学校の生徒など）を明確にして、事前に調整する必要がある。
- （４）1回あたり2時間弱（15～20分の休憩を含む）、4～5人程度の演奏グループが4～5グループ、計20人弱を招へいする場合、予算として約42万円が参考となる金額。
- （５）PMF事務局側では、会場到着までの準備を行うとのこと。（出演者との事前調整、舞台監督、通訳の手配、楽器や特殊なイスといった備品の準備、奏者送迎バスなど）
- （６）奏者は、フェスティバルの期間中にオーケストラの練習があるため、なるべく札幌から日帰りできる範囲内の街で演奏会を行うことが望ましいとのこと。
- （７）演奏会の実施に関するプログラムをつくる準備のために、フェスティバル開会前のかなり早い段階からの詳細な打合せが必要。

3 PMF教育セミナーについて（※抜粋：2012年公式プログラム）

音楽普及事業のひとつであるPMF教育セミナーは、世界で活躍する音楽家が行う音楽講座や、PMFオーケストラのリハーサル見学など、PMFならではの充実したプログラム。高校生以上が対象。募集人数：50人。

《教育セミナーの実施要件》（※事務局担当者より聞き取り）

教育セミナーは、吹奏楽の指導者や学校の音楽教諭などを対象として実施していたが、現在では一般の方も参加できるように高校生以上を対象として実施しているとのこと。

かつて、札幌市内の小学校1クラスへ訪問していた経緯もあるが、①毎年継続して実施する学校の選定の問題、②アーティストとの日程調整など短期間で準備することが困難、③生徒を夏休み中に登校させる問題、④フェスティバル中は忙しくて音楽プログラムをゆっくり作成できないなどの理由により、現在は、札幌コンサートホール「Kitara（キタラ）」をメインに実施している。

※ 教育セミナーを今後さらにどのようなプログラムにしていくかについて、事務局において検討中。現在のプログラムにおいて、江別市で音楽の普及を行うのであれば、アンサンブル演奏会（アウトリーチコンサート）を活用した方が良いのではないかとのこと。

募集要項	
◇日時	2012年7月21日（土） 10：00～17:00（予定）
◇会場	札幌コンサートホールKitara及び3階大リハーサル室
◇参加資格	高校生以上
◇定員	50人 （受付期間終了前に定員に達した場合にはその時点で受付を終了いたします）
◇受付期間	5月1日（火）～6月29日（金）
◇プログラム内容 （予定）	<ul style="list-style-type: none"> ● 10：00-12：30 オーケストラのドレス・リハーサル見学 ● 13：00-14：30 ファビオ・ルイジの音楽講座 プログラムⅠ（13：00-13：40予定） マリス・ペーターゼンを迎えて歌曲演奏とその解釈について ● プログラムⅡ（13：45-14：30予定） PMFアメリカ・メンバーを迎えてオペラ演奏の醍醐味とその魅力について ● 15:00-17:00 PMFオーケストラ演奏会鑑賞
◇参加料	一般：5,000円（税込） 学生：4,000円（税込） 同日に行われるPMFオーケストラ演奏会チケットS席1枚付 ※座席指定、フレンズ会員割引との併用はできません。
◇お申し込み方法	下記「教育セミナーお申込フォーム」にアクセスし、必要事項を記入のうえ、送信してください。 後日教育セミナー担当から参加料のお支払いなど詳細につきましてご連絡いたします。

■サイトウ・キネン・フェスティバル 松本について

1 サイトウ・キネン・オーケストラについて

(※抜粋：サイトウ・キネン・フェスティバル松本ホームページ)

サイトウ・キネン・オーケストラは、日本の代表的な音楽学校である桐朋学園の創設者のひとりであり、偉大な教育者であった故齋藤秀雄教授の没後10年にあたる1984年9月、彼の弟子である指揮者の小澤征爾と秋山和慶の呼びかけにより、齋藤の教えを受け、現在では世界各地で活躍している音楽家100余名が日本に集まりコンサートを行なったのが基礎になっている。

2 松本市としての音楽に対する取り組み

(※抜粋：松本市長ホームページ。所管：政策部国際音楽祭推進課)

(1) 基本的な考え方

松本市は、松本城をシンボルとした城下町であるとともに、三つの「がく都」とも呼ばれています。アルプスの「岳都」、サイトウ・キネン・オーケストラに代表される音楽の「楽都」、そして、旧開智学校や旧制松本高等学校当時から受け継がれてきた、学問教育を重んずる「学都」です。

松本市では、具体的なまちの姿として、(1) 城下町松本の再生、(2) 次世代交通政策の推進等による中心市街地の活性化、(3) 健康、医療産業の創出、誘致、雇用の創出、(4) 地域住民によるいきいきとした地域づくり、(5) 三がく都に加え松本山雅FCによる交流拠点都市の形成、という5つの施策を重点的に進めています

(※注：「松本山雅FC」はJ2リーグのサッカーチーム)

(2) 「サイトウ・キネン・フェスティバル松本」の共催

主催：サイトウ・キネン・フェスティバル松本実行委員会

／公益財団法人サイトウ・キネン財団

共催：長野県／松本市

総監督：小澤征爾

公式公演：オーケストラコンサート、オペラ、室内楽

公式公演以外の事業：子どものための音楽会、青少年のためのオペラ 他

支援協力事業の実施

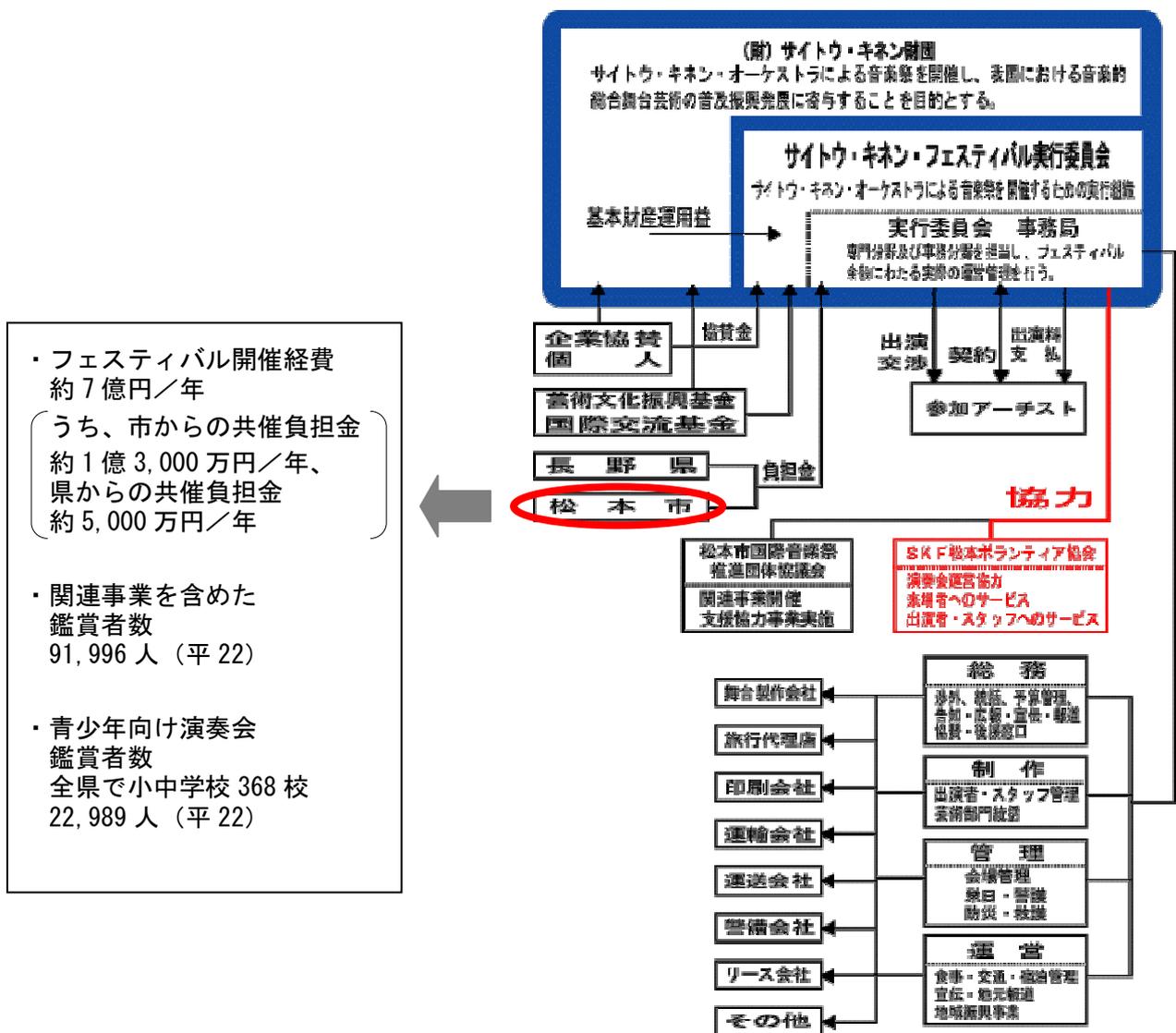
- ・演奏会運営への支援協力事業
- ・歓迎、装飾事業
- ・広報、宣伝事業
- ・街の美化及び環境整備事業
- ・ホスピタリティー事業

(3) 関連事業等の実施

- ・フェスティバル展
- ・温ったか出前コンサート、特別出前コンサート
- ・吹奏楽パレード、合同演奏会
- ・楽器クリニック

- ・ 歓迎演奏会「お城 de ハーモニー」
- ・ スクリーンコンサート（会場さながらの雰囲気を楽しんでもらおうとハイビジョン映像と 5.1ch サラウンドの高音質音声の生中継によるスクリーンコンサートを札幌でも開催。2012 年 8 月 23 日（木）パセオ センター地下 1 階テルミヌス広場）
（※コンサートに関する説明抜粋：HTBホームページ）
- ・ ウェルカム ストリート・ライブ（サイトウ・キネン・フェスティバル松本を歓迎するストリート・ライブ（松本市国際音楽推進団体協議会主催）で、松本駅東西自由通路で地元のアマチュア演奏家が、ジャズやポップスなど 20 曲ほどを奏で、行き交う人々が足を止めて楽しんでいきます。）
（※ライブに関する説明抜粋：信州ライブオンホームページ）

3 サイトウ・キネン・フェスティバルの実施体制



（※資料：長野県平成 23 年度事務事業評価シート、松本市平成 23 年度予算書、SKF松本ボランティア事務局ホームページ）

4 サイトウ・キネン・フェスティバル松本におけるボランティア

(※抜粋:SKF松本ボランティア事務局ホームページ)

毎年開催されるサイトウ・キネン・フェスティバル松本(以下SKF松本)は、SKF松本実行委員会と(財)サイトウ・キネン財団によって主催されています。

その中でSKF松本ボランティアは、演奏会運営協力、来場者・出演者・スタッフへのサービスを主な活動として、松本市国際音楽祭推進団体協議会と共に、SKF松本事務局を支援しています。

ボランティア活動を統括している事務局は、7月下旬から8月上旬に組織されますが、このスタッフももちろんボランティアです。

約2ヶ月の長期にわたりボランティア活動を行うのですから、常に事務局は人材不足に悩まされています。長期にわたり時間的都合がつくスタッフ(2000年の場合は大学生が協力してくれました)がこの大変な事務局を支えています。

ボランティアの主な活動は、演奏会運営協力、来場者・出演者・スタッフへのサービスです。

具体的には会場作り(椅子並べやステージ作りなど)やお客様の案内が主です。

演奏会期間中はほとんど演奏を聞いている暇はありません。「縁の下の力持ち」を忠実に守りながら働いています。

表に出ることは少ないのですが、しかし「自分達がこの世界レベルの音楽祭を支えている」という思いは何ものにも変えがたく、そして一人一人の大切な誇りとなっています。

現在ボランティア登録者は567名です。

しかし、1回の公演について必要な人数は80名ほどです。ボランティア登録の際に、参加可能日を申告してもらいますが、残念ながら人数が超過した場合お断りすることもあります。

ボランティアと言うくらいなので、活動していただいた仕事に関しての報酬がありません。さらに言えば、交通費や滞在費なども出ません。

松本市内であればそれほど負担にはならないのですが、東京や名古屋など遠くから参加していただいているスタッフもいます。その方たちのご苦労は計り知れないもの。それでもSKF松本を支えてくれる熱い思いには本当に頭が下がります。

そんな熱い思いを持つスタッフと、素晴らしい演奏を奏でるSKOのメンバー、そしてその感動を喜んで受け止めてくれる観客の皆様があってこそ、SKF松本は色あせぬまま続いて行くのではないのでしょうか。